

キリスト教保育

年主題

つながって

～今、わたしを生きる～

礼拝のお話

藤田美千代

巻頭言

良い羊飼いととして

西嶋佳弘

論説

関わりの中に見えてくる

子どもの気持ちの理解

山田陽子

2023年度

カリキュラム・聖句表



2023 MAR.

3

正義を行い、慈しみを愛し へりくだって神と共に歩むこと、これである

聖書 新共同訳・ミカ書6章8

今月の聖句は旧約聖書のミカ書です。この時代に、預言者ミカの声を聞くのも、今の時にかなっているのではないのでしょうか。

イエスさまは、ご自身と対立する律法学者たちとファリサイ派の人々に向かって、「あなたたちは律法の中で最も重要な正義、慈悲、誠実はないがしるにしているからだ。これこそ行うべきことである」（マタイによる福音書23:23）と書われました。「これこそ行うべきことである」と示された三つのこと、それはミカの言葉では、「正義、慈愛、神と共に歩む」になります。私の考えでは、これはキリスト教保育の基本理念にもなり得ると思っているのです。

「正義を行う」ことは、人間の一切の共同体的秩序の基礎であります。「正義」という言葉から考えますと、言っていることは難しそうですが、保育の現場におろしてみますと、「正しく公平に保育をする」ということだと思ふのです。「正しく公平に」保育をする意識の根元は、「愛」と「慈しみ」なのです。二つの言葉に表されている「慈しみを愛する」意識をもってこそ、「正義」は行われることを承知したいのです。「慈しみと愛」とは、努力ではなく心の奥底から湧き上がってくるものなのです。愛とは愛するものの生命と成長に積極的に関係することなのです。

ミカ書は、神との交わりにおけるへりくだった態度を、究極的な神の求めであると、語っています。「へりくだって」を「賢明に」「抜け目なく」という訳文もありますが、「へりくだって」が、親しみがあると思います。神との関係づけが、人との正しい関係を得るのです。人と人との共存の楽しさ、喜びも、ここから生まれてくると思うのです。

正義、愛、神の前の謙遜という不変の三和音によって、ミカ書は「これである」とまとめています。

私たちは、保育の業を、「これである」という確信に基づいて、子どもたちと共に生きる保育者でありたいと願うのです。

宗宮 進・執筆 当時・日本キリスト教団津山教会牧師 田町保育園園長
1989年『キリスト教保育』誌4月号より

キリスト教保育

第648号3月号

年主題

つながって

～今、わたしを生きる～

幼子とともにキリストへ
目次

〈巻頭言〉 良い羊飼いととして 西嶋佳弘

〈論説〉 関わりの中に見えてくる子ども

気持の理解 山田陽子

〈小論〉 お話を語る魅力ときく喜び(2) 菊野秀樹

聖書に聞く・お話 篠田真紀子

〔カリキュラム〕

3月 月のねがい表

心にとめて 高梨美紀

実践報告 キリスト教愛児園

実践からの学び 犬童れい子

心にとめて 田中洋子

実践報告 麗和幼稚園

実践からの学び 木村創

絵本のとびら 山口美緒

〈連載〉キリスト教保育Q&A 塩谷直也



42 41 40 34 32 29 24 22 21 18 14 6 4 3 2

〈連載〉領域「表現」とは 尾根秀樹

目福口福耳福 今村愛喜

礼拝のお話 藤田美千代

風 塚本潤一 編集子 白井真名子

連盟だより

2022年度 総目録

2023年度年主題・年聖句

2023年度 年・月聖句表

2023年度 カリキュラム表



表紙絵 田中横子
カット 長縄えい子 金井ユリ
中畝治子 松成真理子

65 64 63 60 59 58 48 47 44